

『消費者はなぜだまされるのか』

『弁護士が見た悪質商法』

村 千鶴子・著 平凡社新書

780円＋税



悪質商法と言われて久しい。帯にもある通り、「自分だけ」と思っていないだろうか？男性サラリーマンが被害者数では一番多いとのこと。「悪質商法の被害にあわないコツ」は「賢い契約の結び方」だそう。契約は「する」ものであって、「させられる」ものではない、と著者は言い切り、契約前に消費者にできることがあると説く。①いらないものは、はっきりと断る②迷った場合は、断る③慎重に吟味して決める④契約内容をきちんと把握し、契約書もよく読む。結果として、「被害にあったら、我慢しない」。しかし、消費生活センターに相談する人たちはほんのわずかだと言っ。全国各地の消費生活相談の場所が巻末にある。小平市消費生活相談室

(042)341-1211

『おひとりさまの「法律」』

中澤まゆみ・著 小西輝子 (法律監修)

株式会社法研

1300円＋税



ベストセラー「おひとりさまの老後」(上野千鶴子著)の続編。法律は、知っているのと知らないのでは大違い。知っていれば、無用なトラブルに巻き込まれるのを防ぎ、万が一トラブルに巻き込まれてしまってもわが身を守ってくれる。本書は、つれあいの死別、離婚、罹患、人生の終焉：それぞれの場面で必要な法律知識、行政サービス等のお役立ち情報が満載！法律をつよい味方につけて、老後も死後も乗り切ろう！おひとりさまも、おひとりさまでなくても、お役立ち度★★★★★

『労働法はぼくらの味方！』

笹山 尚人・著

岩波ジュニア文庫

780円＋税



著者は弁護士で、青年労働者、非正規雇用労働者の権利問題を中心に事件を担当している。今の学校では、あまりにも働くということや、その中で自分が活用できる権利にどのようなものがあるかを、教えなさすぎるのではないかな。ならば生きた労働法をわかりやすい形で、子どもたちに伝えたい、と考えて作られた本。アルバイトをしている高校生の甥から悩みを相談され、それに答える形で物語が展開しているため読みやすい。

『ひとり暮らし9年め』

たかぎなおこ・著

メディアファクトリー

980円＋税



上京してから9年。イラストレーターの仕事も順調、住まいもワンルームから余裕の2Kに。好きな時に起きて好きな時に寝る。3日も人としゃべらない時もあるけれど、気ままな暮らしはやめられない。だからって、生き方下手をぬいてるわけじゃない。食事は基本自炊だし、みそ汁はちゃんと出汁をとってるもん。ぐらぐらするけど棚だつて作るし、ペランダには鱈もいる。親が上京しても泊ってもらえるし。はいはい、お気楽で楽しそうだねー。けどはつきり言って私にはあんまり魅力がない。だって、たいいのことが一人で完結してしまう生活なんて面白いとは思えない。わたしにとって、男でも女でも、とにかく好きな人の気配や話し声のない生活は物足りない。そう思わせてくれた「ハウツーひとり暮らし」本。

# ひろく広場

## 原稿をお寄せください

ひろくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字以内)には〒、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢、も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

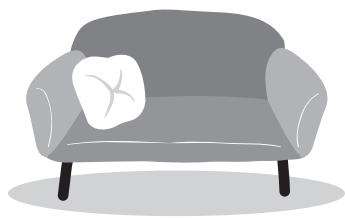
あて先/小平市小川町二丁目1333番地  
小平市次世代育成部青少年男女平等課  
「ひろく広場」係 FAX 042-346-9200  
byodo@city.kodaira.lg.jp



ひろく編集室はあなたにひらいています。

## 『ひろく』を読んだ

23号にして始めて本誌を手にししました。表題「ひろく」下の「未来をひろく、ころをひろく」、そして横に書かれたさまざまな「ひろく」に魅せられ、なんだかそこには私の未知なる可能性までひらかれている気がして、隅々まで熟読しました。特集「選べる夫婦の私たち」分り合いうまで話してみるのは特に興味深かったです。自分以外は皆他人、その違いを認める寛容さと、違いを楽しむ余裕があれば、日々こんなにイライラしなくていいのかもしれないね。金子みすずの詩の一節「みんなちがって、



みんないい」が頭に浮かびました。生物学的にも多様性は種存続の力になるといいます。違いは違いとして認められ、個々が「かけがえのない存在」として尊重されるような社会にしていけば、きつと快適で住みよい持続可能な社会になるでしょう。まずはその第一歩として、身近な夫と面倒臭がらず向き合って、違い観察でもしてみようかしら。「閉ざす」「閉ざされる」ことの多いこの世の中、「ひろく」で運も未来も開けるように、次号期待しています。

(りりさゆママ)

もっと女性議員が増えたら日本も変わるかも? 修行 について決めて、24時間奥さんが介護しているお父さんも多いし…やっぱ、男女助け合って、仲良くが一番!

(玉川上水/40代)

仕事でも、人生でもキラキラしているのは女性ばかり。中学の吹奏楽部は女子ばかり、生徒会長も当然女子。男は草食系と弁当男子が増殖中。男女共同参画もこの辺で、チェンジかな?!

(ワイン/40代)

「男の人がまずあって、ついでに女の人」という感じがする。個人的には、性による差別を受けたことがないし、そんなもんだと刷り込まれているからか、

日頃、男女平等とか男女共同参画とか意識したこ



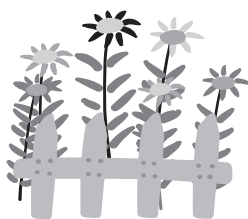
とはあまりない。定年を迎えた男性は居場所がないとか、地域社会では女性の力がむしる活躍していて男性は「地域弱者」になっているのではないかと。女性も男性もお互いに尊敬し合いながら、足りないところを補い合って生きていくのがいいと思う。

(女性/30代)

## 本当は一人じゃない

夫に先立たれたのでお一人様になりました。知的障害のお一人様の息子との二人連れ。少し気を使った暮らし方をしています。まずお風呂、どんなに気持ちよくても眠りません。病院に行く日ならどんなに体調が悪くてもあえて病院に行つて休ませてもらいます。病院までたどり着かなければ道行く人に介抱してもらいます。日頃から窓は開けておき、訪ねてきた人がのぞきこめるようにしています。…何に気をつけているかわかりますか? 一人きりにならないための工夫です。ひとり生きていけないのは子育てで実証済み。誰かしらに助けってもらって今があるのが事実。少しくらい恥ずかしくてもまあいいや、です。「いざ」のときの助け合う力を信じています。

(あみあみママ/70代)



## 洗濯は夫の仕事

様々な年代が集う女性の勉強会で一週間の生活時間調べをした。

「あれ、Aさんの洗濯時間はゼロ? でも、干したり取り込んだり、たたんでしまふ時間は?」など、質問は小学生を持つAさんに集中した。「洗濯は夫の分担になっているのよ。子どもたちは自分の引き出しにしまおうし、私の衣類は夫がしまおう。」と共働きのAさんは話した。

数日たった夏休み、多摩全生園のため、使い捨て布を作る「親子で参加の奉仕会」があった。エプロンを付け、決められた大きさに布を切り取り、できた使い捨て布をきちんと揃える小学1年生と2年生のお子さんの姿を見て「家庭の中の分担」になるほどと納得がいった。

(気分は若い昔の母/65歳)



決まった大きさに布を切る。10枚ずつ重ね、揃え、数える兄と妹。